

しょう かん りかいそくしん こうえんかい
障がいに関する理解促進のための講演会
ちてきしょう かた りかい ふか
(知的障がいのある方への理解を深めていただくために)
こうえんかいじっしけつか
講演会実施結果

1 日時・会場

へいせい ねん がつ にち きん じ ぶん じ
平成24年12月14日（金）18時30分から 20時まで

さっぽろ え る ぶら ざ かい ほ ー る きたくきた じょうにし
札幌エルプラザ3階ホール（北区北8条西3丁目）

2 参加者数

めい
80名

きねんひん さんかしゃぜんいん しょう かた しゅうろうしえんしせつ せいぞう
記念品として参加者全員に、障がいのある方が就労支援施設で製造した
かし くぼ
お菓子などを配りました。

3 講演会の概要

(1) 知的障がいのある方への接し方などについて

こうし しゃかいふくしほうじんさくふう もりもとし
講師：社会福祉法人朔風の森本氏

しゅうろうしえんしせつ かよ しごと めい かた しえんしゃ
就労支援施設に通って仕事をしている2名の方とその支援者

さいしよ しゅうろうしえんしせつ かよ
まず最初に、就労支援施設に通って
しごと しごと ないよう
仕事をしている方から、仕事の内容や
ひごろ せいかつ しゆみ はなし
日頃の生活や趣味などについてお話を
うかが
伺いました。

つぎ もりもとし しょう とくせい
次に、森本氏から障がい特性や
せつ かた はなし うかが
接し方などについてお話を伺いました。

がいよう つぎ
概要は次のとおりです。

● 知的障がいは特別な障がいではありません

ほんらい みな いっしょ とし かき ちしき けいけん
本来であれば皆さんと一緒に年を重ねていって、知識や経験を
つ かき
積み重ねていくはずだったのですが、いろいろな理由によって、例えば
さい さい さい ちしき
3歳であったり、5歳であったり、6歳で知識がとどまってしまったと
いうことです。



● 知的障がいちてきしょうは生まれてすぐにうま分からないことわが多いおお

知的障がいちてきしょうというのは、生まれてすぐにうわかる障がいしょうと、ぱっと見てみわからない障がいしょうがあります。わからない方かたがほとんどです。子どもができたとき、皆さんは喜びますね。元気にげんき生まれてきてほしい、五体満足ごたいまんぞくで生まれてきてほしいと。そして、生まれてきて、ああ、よかった、元氣げんきだねと。それが3カ月健診げっけんしんや6カ月健診げっけんしん、1年健診ねんけんしんをしていくうちに、この子には知的な遅れちてきがありますということおくを言われいます。そのときのショックしょくくというのは、親おやにとっては絶望ぜつぼう的なものぜつぼうがあります。けれども、この子と一緒いっしょに生きていこういと思っておも育てていくそだのです。

障がいしょうを負うおということは、本人ほんにんも大変たいへんですが、育てる親そだも家族おやも非常ひじょうに大変たいへんな思いおもをしながらそだ育てているのです。食品売り場しょくひんうばである子どもが奇声きせいをあげたり、わあわあい言いながら泣ないていたりして、それを周りまわが見みていて、どうして泣なきやませないのなだろうとか、しつけがなっていないのではないかおもと思うことおもがあります。しかし、実は情緒障がいじつじょうちよしょうが良かったとか、自閉症じへいしょうの障がいしょうを負おっていたとか、そういうことおもも、もしかしたらあるかもしれないのです。そういう中なかで、親御さんおやごたちは、いろいろなことたに耐えながらこそだ子育てこそだをしているということがございます。

ある知的障がいちてきしょうのある方かたが病氣びょうきで亡なくなり、通夜つやの席せきに行いって、お母さんかあとお話はなしをしたのですが、そのときにお母さんかあが「親より先おやに逝さきって孝行こうこうな子こです」と言いったのです。どこの世界せかいにも、子どもが先こに逝さきって孝行こうこうな子こがいるわけはないのです。でも、親おやにしてみたら、この子こを残のこして自分じぶんが先さきに逝いくことが心配しんぱいで心配しんぱいでたまらないのです。それで出た言葉ことばが、先さきに逝いって孝行こうこうな子こですという言葉ことばだったのです。そのぐらい、我が子わこより一日いちにちでもいいから長生きながいしたいと思おもっているのが障がいしょうを持っている子こどもの親おやの氣持ちきもちです。

● どんな障がいしょう特性とくせいがあるのか

- ・ 認知にんちの不正確ふせいかくさ

見たことみ、聞いたこときを、1回かいで覚おぼえることにがてが苦手にがてということにがてです。

ですから、何回か、繰り返し、繰り返し、話したり言ったりすることで、それがだんだん経験になって、身についていきます。

・ 精神構造のかたさ

臨機応変な対応が苦手ということです。例えば、覚えたことや、これまでやってきたことを応用したり、この場面だったらこういうふうにかせるとか、そうやって対応することが苦手です。また、急な物事の変更にもものすごく戸惑いを持ちます。

・ 抽象化・一般化が困難

抽象的なことが難しいのです。ですから、何でも具体的にお話をしてくれたりするとわかるのですが、「あれ」とか「これ」とか「それ」ではわからないわけです。具体的にわかりやすい言葉で、ゆっくり話をしてあげることが一番大事かと思っています。

・ 見通しの欠如

例えば、先の予測をしたり、計画を立てたりするのが、あまり得意ではありません。

・ 記憶の不安定性

一度にたくさんのかを聞かされたり、一度にたくさんのかがあるかと、混乱してしまいます。ですから、順序よく、一つ一つ具体的に説明したり、確認していくことで、不安なところを取り払っていくことが大事になってくるかと思っています。

・ コミュニケーションの難しさ

言語のない方もいらっしゃいますし、言葉が何を言っているかわからないケースもあります。早口だとなかなかわかりませんし、難しい言葉はもちろんわかりません。ゆっくりと、ゆったりと話をあげたり、聞いてあげたりするのが一番効果的で、相手が話している途中に、「こういうことかい」と途中で挟んでしまうと、本人はすごく嫌なのです。最後まで聞いてほしいという思いがありますから、それはなるべくしないようにしようと思っています。

・ 健康上の問題

自分のどこが痛いのか、どう具合が悪いのかを伝えるのがあまり上手ではないのです。「おなか痛い」と言っても、どこら辺が痛いのかうまく伝わってこなかったり、どんなふうに痛いのが伝わってこなかったりします。

この七つのほかに、周りに影響されてという部分が三つあります。

一つは、周りの人が本人に対して、本当は自分でもできるのに、できないと決めつけてさせないことです。例えば、企業の雇用主と話をしたら、知的障がいには働けるのですかとよく言うのです。働けないと思っていましたと。いえいえ、ちゃんと働けますよ、はまったらすごい力がありますよという話をするのですけれども、そういうふうに、本当はできることを、この人はできないと言われることによって、経験がふえていかないケースがあります。

もう一つは、周りの人が本人の障がいを認めないことです。そういう周りの環境設定のまずさみたいなものも障がいを2次障がいの的に重くしていくケースがあります。

また、障がいというだけで、言われぬ差別や偏見を受けて、人権が侵害されやすい部分がどうしてもあります。やっぱり、障がいという前に、一人の同じ人間として本人を見つめることが一番大事ではないかと思えます。ですから、私は、さっきの一つから七つで知的障がいは特別な障がいではないというお話をさせていただいています。

● 知的障がいのある方へのエチケツト

最後に、障がいのある方本人たちがつくったエチケツトがあるのです。きょうは、これをご紹介させていただきたいと思っています。

・ いつまでも子ども扱いしないでください

私たちの悪いくせで、どうしても子ども扱いしてしまうことがあります

ます。

- ・ 障がいよりも個性を知ってほしい
障がい者という言葉の前に、先ほども言いましたけれども、〇〇さんという個人を見てほしいと思うのです。一人一人、10人いれば、10人みんな違います。1人の個性、人間として見てください。
- ・ 仲間として受け入れてください
家庭でも学校でも職場でも、いつでもみんなと一緒にいたいとおもっています。
- ・ 心を傷つけないでください
不用意な言葉や心ない言葉を私たちにかけて、傷つけないでくださいということなのです。
- ・ 周りの人の行動に大きな影響を受けます
これは、周りの人がこうしなさい、ああしなさいとか、それをしてはだめと言うのではなくて、自分が何をしたいかということもちゃんとわかってほしいということなのです。
- ・ 話をしているときは最後まで聞いてほしい
話をしている途中で遮ったりすると、本人たちは嫌なのですね。だから、どんなにゆっくりしゃべっていても、ちゃんと最後まで聞いてほしいのです。
- ・ わかる言葉で話をしてください
抽象的な表現が苦手です。話をするときには、わかりやすく、具体的に、ゆっくり話してください。
- ・ 言葉だけの説明ではわかりづらいことがあります
言葉だけではなくて、写真や絵や物を使って説明をしてくれると、よりわかりやすくなります。
- ・ 話しかけてください
いろいろな人と話をしたいのに、話しかけるきっかけがなくて、自分から仲間に入っていくことがあまり得意ではありません。ですから、ぜひ皆さんの方から話しかけてください。

- ・ せかさず、あせらず、^{みまも}見守ってほしい
一生懸命に努力しているのに、^{いっしょうけんめい}一つの^{ひとり}ことをするの^{ひと}に時間がかかっ
てしまいます。^{あたた}温かく^{みまも}見守ってほしいのです。
- ・ しかるよりも、まず^{さき}先に^{せつめい}説明をしてください
^{まちが}間違っ^あたことをしたときでも、いきなりしから^{やさ}ないで、^{ていねい}優しく丁寧
に^{せつめい}説明してほしいのです。
- ・ ^{しょう}障がいがあっても、^{わたし}私たちの^{じんせい}人生は^{わたし}私たちの^{わたし}ものです
^{みな}皆さんにもそれぞれの^い生き方があるように、^{わたし}私たちにも、^{おな}同じよう
に、それぞれの^い生き方があります。ですから、^{わたし}私たちの^{わたし}ためとはいえ、
^{めいれい}命令をしたり、^{ほか}他の^{ひと}人が^{ものごと}かかわって^か物事を^き勝手に決^きめたりすることはや
めてください。^{かなら}必ず^{わたし}私たちの^{いけん}意見を^き聞いてください。

● ^{とくべつしえんきょういく}特別支援教育について

^{ちてきしょう}知的障がいのある^{かた}方の^{おお}多くは、^{しょうがっこう}小学校、^{ちゅうがっこう}中学校を^{とくべつしえんがっきゅう}特別支援学級で
^す過^{こうとうようごがっこう}ごして、^{しんがく}高等養護学校に^{さっぽろけんきんこう}進学^{こうとうようごがっこう}します。札幌圏近郊の^{さっぽろけんきんこう}高等養護学校に
^{はい}入^{ひと}れる人は4割ぐ^{わり}らいで、^{かた}あとの^{ちほう}方は^{がっこう}地方の^い学校に行きます。そして、
^{どうりつ}道立の^{こうとうようごがっこう}高等養護学校は^{きしゆくせい}寄宿制^{がっこう}です。学校^{やす}の^ひ休^{きしゆく}みの^{やす}日は^{やす}寄宿も^{やす}休^{やす}みなので
^{ちか}す。近^{ちか}いところ^{どようび}だった^{あさ}ら、土曜日^{かあ}の朝^{むか}にお母^いさんが^つ迎^つえに行^つって^つ連れて^つきて
^{にちよう}て、日曜^{よる}の夜^{かえ}に^{かえ}帰^{かえ}します。ところが、^{とお}遠^{がっこう}くの^{ばあい}学校^{まいしゅうむか}の場合^い、毎^い週^い迎^いえに行^いく
ことなど^{かてい}でき^{くるま}ませんし、^{かてい}すべての^{くるま}家庭^{くるま}に^{くるま}車^{くるま}があ^{くるま}つたりする^{くるま}わけでもあり
ませんし、^{きんせんてき}金^{たいりよく}銭^{たいりよく}的な^{たいりよく}体^{たいりよく}力^{たいりよく}があ^{たいりよく}る^{たいりよく}わけでもあり^{たいりよく}ません。そう^{とお}すると、^{とお}遠^{とお}く
^いへ^い行^いかな^いければ^いなら^いない^いから^いと^いって^い進^い学^いを^い断^い念^いする^いケ^いー^いス^いも^い出^いて^いき^いま^いす。

● ^{ふくし}福祉^{せいど}の^{せいど}制度^{せいど}について

^{ちてきしょう}知的障がいのある^{かた}方が^{げんき}元^{はたら}気^びで^く働^{だいたい}ける^{さい}ピーク^{さい}は^{さい}大^{さい}体^{さい}45歳^{さい}です。40歳^{さい}
^すを^す過^すぎると、^{のうりよく}能^{こうどうめん}力^{ふく}も^{ふく}行^{ていか}動^{はじ}面^{はじ}も^{はじ}含^{はじ}めて^{はじ}だ^{はじ}ん^{はじ}だ^{はじ}ん^{はじ}と^{はじ}低^{はじ}下^{はじ}が^{はじ}始^{はじ}ま^{はじ}り^{はじ}ま^{はじ}す。
40代^{だい}、50代^{だい}は、^{ていか}その^{すこ}低^{おさ}下^{いじ}を^{いじ}少^{いじ}し^{いじ}でも^{いじ}抑^{いじ}え^{いじ}て^{いじ}維^{いじ}持^{いじ}する^{いじ}た^{いじ}め^{いじ}に^{いじ}何^{いじ}を^{いじ}する
^{かんが}か^{かんが}を^{かんが}考^{かんが}え^{かんが}ま^{かんが}す。

かれ ろうかそくど ひじょう はや だうんしょう ひと だいたい さい
彼らの老化速度は非常に速いのです。ダウン症の人は、大体40歳を
す ろうか はじ はや ひと さい にんちしょうしょうじょう
過ぎると老化が始まります。早い人では、45歳ぐらいで認知症症状が
で
出てきます。

これからの一番の課題は何かというと、働けなくなった、老化現象が
でてきた知的に障がいのある方々をどうやって支えていくかというこ
とです。彼らも、40歳を過ぎたら、介護保険を払っているのです。障害
基礎年金の中から介護保険を払うのですね。介護保険サービスの利用は
65歳からです。でも、彼らの老化症状が出るのが65歳前なのです。
65歳を過ぎた彼らが介護保険サービスを使っているのは僅かの人です。
ほとんどの人が障害者自立支援法の支援をこのまま受けながら、65歳
を過ぎても、70歳になっても、介護保険サービスを使わずにいます。
とし
年をとっても住みなれた地域で安心して暮らしていくためにどの方
さく ひつよう しょうがいしゃそうごうしえんほう しえん う さい
策が必要か、障害者総合支援法では「親なき後」ということと、「障
いの高齢化に対する対策を講ずる」ということが盛り込まれました。そ
ういった意味でも、ぜひ、かれ なが じんせい なか とし
彼らの長い人生の中で、年をとっても暮らせる
しえん
支援ができあがってきたらいいなと思っています。

うちの法人でも、高齢の障がい者に特化したケアホームをつくったの
です。「親より先に逝って孝行な子です」というお母さんの言葉がきっか
けです。親御さんたちに二度とそんな言葉は言わせたくないと思って、
げんき
元気なうちにこういう暮らし方があるということを見てほしいと思っ
たのです。それで、高齢の障がい者に特化したケアホームを
た あ だいなか す じよせい りようしゃ にゆうきよ
立ち上げました。そのときに、50代半ばを過ぎた女性の利用者が入居
したのです。お父さんは80代半ばを過ぎているのですが、わたし
い
言ってくれました。「これで安心して死ねます」と。その言葉を聞いたと
きに、つくってよかったなと思ったのと、「安心して死ねます」というそ
の安心を今度は私たちが実践していかなければならないと思って、今、
しこうさくご つづ
試行錯誤を続けているところです。

● おわりに

十分に伝えることができませんでした。この1時間で、ああ、そうか、知的障がいというのはこういう障がいなんだということを少しでもわかっていただけたら、きょう来た甲斐がございませし、皆さんに足を運んでいただいた甲斐があるなと思っております。

知的障がいのある方は、まちの中で普通に暮らしていますので、どうか先ほど申し上げた12のエチケットではないですけども、同じ人として話しかけてくれたり、見ていただけたらうれしいなと思います。

本日は、どうもありがとうございました。

(2) 障がいのある方の就労支援施策の紹介

障がいのある方に対する就労支援の取組として、「元気ショップいこ〜る」と「カフェドきばりや」を紹介しました。

○ 元気ショップいこ〜る

障がいのある方が製造した製品を販売しているお店で、障がいのある方も働いています。

元気ショップいこ〜る
所在地 札幌市北区北6条西4丁目
J R 札幌駅西コンコース「食と観光の情報館」内
電話 011-213-5063

○ カフェド・きばりやの紹介

今回の講演会の会場である札幌エルプラザの中にあるカフェで、障がいのある方も働いています。

カフェド・きばりや
所在地 札幌市北区北8条西3丁目
札幌エルプラザ内3階喫茶コーナー
電話 011-758-6533

4 ^たその他

会場入口にて元氣ショップいこ～るが^{しゅってん}出店し、障^{しょう}がいのある^{かた}方が^{せいさく}製作した^{せいひん}製品の^{はんばい}販売を^{じっし}実施。

